Song Review 5 #イムジン河

『#イムジン河』(1968年)を取り上げる。本作『イムジン河』は、原詩を朴世永(パク・セヨン)、作曲を高宗漢(コ・ジョンハン)が手がけた韓国の楽曲で、フォーク・クルセダーズの松山猛が日本語訳詞を担当した。

「イムジン河 水清く とうとうと流る
水鳥 自由にむらがり 飛び交うよ
我が祖国 南の地 想いははるか
イムジン河 水清く とうとうと流る
北の大地から 南の空へ
飛び行く鳥よ 自由の使者よ
誰が祖国を 二つに分けてしまったの
誰が祖国を 分けてしまった」

朝鮮戦争後、南北に分断された朝鮮半島の悲劇を歌った反戦・反分断の歌。イムジン河(臨津江)は、実際に北朝鮮と韓国の境界を流れる川である。

この歌詞は、南北に分断された祖国を想う切実な感情と、自由を象徴する鳥のイメージが交錯する。1968年に東芝音工からシングルとして発売予定であったが、朝鮮総連から「原詞に忠実な訳詞と作詞・作曲者の明記」を求められたことを受け、発売は急遽中止になった。代わりに『#悲しくてやりきれない』が発売された。

『#悲しくてやりきれない』(作詞:サトウハチロー, 作曲者:加藤和彦)は、1968年にザ・フォーク・クルセダーズが発表した楽曲で、深い悲しみとやるせなさを静かに歌い上げた曲である(加藤和彦は2009年自死)。

「胸にしみる空の輝き 今日まで遠く眺め涙を流す
悲しくて 悲しくて とてもやりきれない
このやるせない モヤモヤを
だれかに告げようか・・・」

この曲は、アニメ映画『この世界の片隅に』の主題歌としてコトリングがカバーし、再び注目を集めた。戦争によって人生を狂わされた人々の「やりきれなさ」を静かに描くこの歌は、時代を超えて多くの人々の心に響く。

序にフォーク・クルセダーズの一員であった北山修が作詞をした『戦争を知らない子供たち』（作曲；杉田二郎、1970年）を紹介したい。我が母校自治医科大学の創立期には、集会の最後にこの歌がギターで演奏され、大合唱で盛り上がった。第二校歌とも言われていた。

「戦争が終わって僕らは生まれた
戦争を知らずに僕らは育った
大人になって歩き始める
平和の歌を口ずさみながら

僕らの名前を憶えて欲しい
戦争を知らない子供たちさ

若すぎるからと許されないなら
髪の毛が長いと許されないなら
今の私に残っているのは
涙をこらえて歌うことだけさ

僕らの名前を憶えて欲しい
戦争を知らない子供たちさ

青空が好きで 花びらが好きで
笑顔がすてきな人なら
誰でも一緒に歩いてゆこうよ
きれいな夕陽が輝く小道を
.....」

ベトナム戦争の真っ只中の大阪万博で初披露された。日本は憲法の制約により直接戦争に関与していないものの、米軍基地の提供などでベトナム戦争に間接的に関与していた。若者や学生を中心に反戦・平和運動が盛り上がり、フォークソングが未来への希望が込められ、その象徴的な表現手段となっていた。

評価：★★★★★